

岡田章子教授略歴

- 1957年 3月 滋賀県立膳所高等学校卒業
- 1958年 4月 大阪女子大学学芸学部英文学科入学
- 1962年 3月 大阪女子大学学芸学部英文学科卒業
- 1962年 4月 大阪市立十三中学校に就任
- 1967年 8月 大阪市立十三中学校退職
- 1967年 9月 (アメリカ) 南カリフォルニア大学大学院修士課程 (1968年 8月まで)
- 1968年 9月 (アメリカ) サンディエゴ州立大学大学院修士課程 (英文学専攻) 転学
- 1971年 1月 同上卒業 (MA in English の学位取得)
- 1972年10月 関西学院大学非常勤講師 (1987年 3月まで)
- 1973年 4月 梅花女子大学非常勤講師 (1977年 3月まで)
- 1975年 4月 関西大学非常勤講師 (1977年 3月まで)
- 1977年 4月 桃山学院大学経営学部助教授に就任
- 1986年 4月 桃山学院大学経営学部教授に昇任
- 1989年 4月 桃山学院大学文学部教授に転任
- 1991年 4月 大阪大学言語文化部非常勤講師 (1993年 3月まで)
- 2007年10月 大阪大学より言語文化学博士の学位取得
- 2008年 4月 桃山学院大学国際教養学部教授に転任
- 2010年 3月 桃山学院大学を定年退職
- 2010年 4月 「桃山学院大学名誉教授」の称号を授与

所属学会

日本英文学会, 日本比較文学会, イギリスロマン派学会

学会活動

1997年10月 イギリスロマン派学会理事（現在に至る）

岡田章子教授主要著作等目録

I. 著書

- 1986年12月 『キーツの詩』 あぼろん社, B 6 版, 182頁
1991年10月 『魔法と妖精——イギリスロマン派の詩人達』 あぼろん社,
B 6 版, 253頁
2006年 5月 *Keats and English Romanticism in Japan*, Peter Lang, A 5 版,
230頁

II. 論文

- 1975年 4月 「「レイミア」——その複雑性と曖昧性」『英米文学手帖』 7号,
pp. 49-57
1975年12月 「『失樂園』を読む」『英米文学手帖』 8号, pp. 43-48
1976年 6月 「「憂うつに寄せるオード」一考」『文学と評論』 6号, pp.
23-29
1977年 2月 「キーツと日本の心——自然のイメージを中心に」『イギリス
・ロマン派研究』 1号, pp. 76-81
1977年 6月 「「聖アグネス祭の前夜」の文体」『英米文学手帖』 10号, pp.
24-34
1978年 6月 「「こころ」の英訳をめぐる——McClellan訳と近藤いね子訳の
比較」『桃山学院大学総合研究所報』 4巻 1号, pp. 47-55
1978年 7月 “Keats’s Humor” (英文)『桃山学院大学人文科学研究』 13巻
1号, pp. 45-57
1978年 7月 「物語の語り手としてのキーツ」『桃山学院大学人文科学研究』
14巻 2号, pp. 39-59
1980年12月 “Unity of Theme in Keats’s Four Odes” (英文)『桃山学院大
学人文科学研究』 16巻 2号, pp. 51-63

- 1981年12月 “The Character of Criseyde” (英文) 『桃山学院大学人文科学研究』17巻3号, pp. 1-14
- 1982年10月 「サイキに寄せる歌」『イギリス・ロマン派の世界——岡本昌夫博士喜寿記念論文集』(成美堂)。pp. 317-331
- 1982年10月 「イーディス・ウォートン」『アメリカ文学の自己形成』第2巻(尾形敏彦編)(山口書店) pp.167-193
- 1982年12月 「ロマン派の魔女——“Lamia”と“Christabel”を中心に」『桃山学院大学人文科学研究』18巻3号, pp. 23-38
- 1983年3月 「つれなき妖女」『イギリス・ロマン派研究』7号, pp. 86-93
- 1984年6月 「キーツの初期の詩」『桃山学院大学人文科学研究』20巻1号, pp. 67-83
- 1985年2月 「「眠りと詩」と「ハイピリオンの没落」」『尾形敏彦・森本佳樹両教授退官記念論集』(山口書店) pp. 118-130
- 1985年10月 「キーツのあずまや」『イギリスロマン派研究——思想・人・作品』(桐原書店) pp. 490-500
- 1989年7月 「欺きと仮面——*Much Ado About Nothing*」『桃山学院大学人文科学研究』第25巻1号(桃山学院大学総合研究所) pp. 57-75
- 1990年7月 “Japanese Scholarship on Keats,” *Keats-Shelley Journal Vol. 39* pp. 166-181
- 1994年11月 「ワーズワスの詩の言葉——『抒情民謡集』を中心に」『英米文学手帖』第32号(関西英米文学研究会) pp. 22-33
- 1994年12月 「孤独なヒロイン——アニタ・ブルックナーの女性達」『英米評論』第9号(桃山学院大学総合研究所) pp. 139-159
- 1995年5月 “The Medical Aspect of Keats,” *Centre and Circumference—Studies in English Romanticism* 『イギリスロマン派学会創立20周年記念論集』 pp. 390-405

- 1995年 7月 「John Keats——医師として詩人として」『桃山学院大学人間科学』第9号（桃山学院大学総合研究所）pp. 61-80
- 1995年 7月 “Translation of Keats’s Poetry in Japan,” *Keats-Shelley Journal* Vol. 44 pp. 147-164
- 1995年 7月 “Guy’s Hospital and John Keats,” *The Keats-Shelley Review* No. 9 pp. 110-121
- 1995年12月 「日本のキーツ受容と将来」『英語青年』12月号（研究社）pp. 516-517
- 1998年 1月 「Keats の伝記一考」『桃山学院大学人間科学』第14号（桃山学院大学総合研究所）pp. 27-46
- 1999年 1月 「Keats の徒歩旅行」『桃山学院大学人間科学』第16号（桃山学院大学総合研究所）pp. 65-83
- 1999年12月 「第二次世界大戦前のロマン派受容」『英米評論』第14号（桃山学院大学総合研究所）pp. 129-55
- 2000年 9月 「Keats における超自然現象：日本の超自然現象と対比して」『桃山学院大学総合研究所紀要』第26巻第1号 pp. 22-25
- 2001年 3月 “Keats’s Use of Words in ‘The Eve of St. Agnes’”『文体論研究』47号 pp. 108-119
- 2001年 “Reception of Romanticism in Japan before World War II,” *The Keats-Shelley Review* No. 15, pp. 88-106
- 2002年 “Reception of Romanticism in Japan after World War II,” *The Keats-Shelley Review* No. 16, pp. 94-113
- 2003年 “Reception of Byron in Japan” *Proceedings of the 28th International Byron Conference 30 August-4 September 2002*, pp. 183-192
- 2007年12月 “The Relationship between Shelley and Keats”『飛翔する夢と現実——21世紀シェリー論集』（英宝社）pp. 117-134
- 2007年 “Keats’s Use of Scientific Words,” *The Keats-Shelley Review* No.

21, pp. 79-96

2009年3月 「劇作家としてのキーツ」『桃山学院大学人間科学』第36号
(桃山学院大学総合研究所) pp. 33-53

Ⅲ. 研究ノート

1993年1月 「医師としてのキーツ」『英米評論』第7号(桃山学院大学総合研究所) pp. 123-138

Ⅳ. 書評

1990年3月 藤田真治(著)「キーツのオードの世界」『英語青年』第135巻12号<1990年3月号>pp. 609-610

1997年7月 「Stephen Coote: *John Keats: A Life*」『英語青年』1997年7月号, pp. 218-219

Ⅴ. その他

〔学会発表〕

1990年4月 「キーツの詩の言葉」(関西コールリッジ研究会第65回例会)

1991年11月 「キーツの『つれなき妖女』」(成城大学セミナー)

1995年7月 「キーツと日本<キーツ生誕200年記念シンポジウム>」(日本比較文学会東京支部例会)

1996年10月 「キーツの魔法と妖精」(第22回イギリス・ロマン派学会全国大会)

1997年11月 「キーツの伝記について」(関西ロマン派懇話会)

〔講演〕

2001年1月 「講演」イギリス・ロマン派と日本の近代詩(堺市教育委員会)

2005年12月 「日本シェリー研究センター特別講演」 「シェリーとキーツ」